

現代の福嶋

特 106

686

~~179
504~~

特



始



特106
686



の
福
嶋

大正
7. 6. 5
内交



鍾子昂



鍾子昂
畫
卷
之
一
卷
之
一
卷
之
一

平江府

胡公

某

錄



咏梅祝現代之福島發刊

謙堂 橫 內 直 温

冰肌綽約一枝梅。清韻堪寒看氣骨
滿目如銀白雪中。孤標卓卓先春發

目次

刊行の辭	一—二
福島縣の位置及都市	三—四
東北と政黨	五—八
輿論とは何か	九—一〇
市福島の將來	一一—一五
福島縣の産業	一六—一七
積極的なる郡山	一八—一九
新聞雜誌と記者	二〇—二二
各地の銀行會社	二二—三九
本縣の二大鑛業所	四〇—四一
各地百方面	四二—四八

各地の温泉……………

當面の人物……………

福島縣著名人物……………

刊末に……………

四九—五四

五五—六四

六五—一〇一

一〇二—一〇三

二

刊 行 の 辭

身體の健全を欲する者は先づ其の體質と性格とを自覺し而して之れに適應すべき健全法を攻究し、家國の盛榮を希ふ者は先づ其の國體と人情とを知了し而して之れに適應すべき、盛榮策を攻究せざるべからず。福島縣の發展を欲し般賑を希ふ者は宜しく先づ其地の利不利を自覺し、人の和不和を自覺し、然る後に時勢を考へ之に適應すべき發展法般賑策を講せざるべからず。

一市一町の發展に資せんが爲めに刊行せられたるの書は蓋し之れあらん。一郡一縣の般賑に資せんが爲めに刊行せられたるの書は未だ之れあるを聞かず。其の地理的方面と歴史の方面とに於ける書は多からんも之れに關して意見を挿入敷衍したる書は殆ど稀なり。彼の官公衙の編纂に係る統計書の如き沿革誌の如き善行美事録の如き、皆其の將來の發展に資する無きに非ずと雖も、主たる目的は蓋し此に在らざるなり。若し此に在りとせば之れを一般公衆に發賣して其の自覺を促がさるべからず。

一

余が此の『現代之福島縣』を刊行せんと企だてたるは敢て其の意味に於てすとは言はざるも、或は其の一端を補ふに資すべき結果を得んかと思へり。余が才は固より菲薄、余が學は固より淺狹、識見文章亦其の任に堪ふべからざるを知る。然れども大膽にも自から企てたる事業を中途にして廢するの愧づべきを知り、謏陋を揣らす秃筆を呵し、自己の及ばざる所は之れを先輩に問ひ、之れを朋友に諮り、援助を仰ぎ補正を乞ひ、拮据暱勉數月を費やし、而して纔に稿を脱し、此に印刷に附し以て公刊するの榮を得たり。其の經過を顧み結果を思ひ心に忸怩たるものあり。記して刊行の辭と爲す。

大正七年四月二十日

編者 齋 北 洋

謝 辭

本書の刊行に關し縣會議員鈴木重郎治氏石城郡會議長横内直温氏其他諸賢より多大の同情を寄せられたり一言書して其の厚意を謹謝す

福島縣之位置及都市

福島縣は岩代磐城一圓を總轄し東北の咽喉に位す、南は茨城縣栃木縣に境し、西は新潟縣及び群馬縣に接し、北は山形及宮城縣に連り東は一帶太平洋に面す。

縣内到る處山嶽重疊し其の陸前より來る山系は磐城之中央を南走して常磐に入り羽前より來るものは岩代の稍々東方を南走して吾妻山磐梯山の舊火山となり蜿蜒して下野に入り縣内到る處重疊し殊に岩代の西境は連山高さ七千尺以上に達す。

地勢並に氣候は兩山系の爲めに自ら分れて三部となる石城、双葉、相馬の三郡は磐城山系の東部太平洋岸に接し濱通りと稱し氣候温和寒暑共に甚だしからず。

中通の一市九郡は磐城、岩代山系との間に位し地味肥沃戸口稠密にして氣候は濱通りに比し寒暑共に稍々勝り岩代山系以西之一市五郡を會津地方と稱し寒暑共に酷しく積雪丈餘に達し河川の大なるものを阿武隈川とす縣内第一の巨流にして源を西白河郡に發し大小の諸川を合せて宮城縣荒濱に至つて海に注ぐ池沼の大なるものを猪苗代湖とす縣の

中央に位し三郡に涉りて周圍約十七里の淡水湖にして魚貝を産す此の地高松宮御別邸ありて風眺甚だ佳なり。

四

縣内の交通は陸羽街道、宇都宮より白河を過ぎ、宮城縣に通じ、濱海道は水戸より平を過ぎ陸羽街道に合す、又福島より米澤山形に達する街道、會津街道、越後街道、中村街道等あり、鐵道は東北本線、常磐線、奥羽線、又磐城東西の兩線新津、平間の磐越線は東線にして十月九日より開通せり私設として白河、棚倉間の白棚鐵道、耶麻郡一圓の耶麻軌道、伊達信夫一圓の信達軌道(株式會社)更に小名濱、泉間の馬車軌道、湯本小名濱間の馬車軌道更に交通上特筆すべきは福島、飯坂間の自動車の便等あり。

かく陸地の便大に宜しきに反し海運は瀕海の地良港灣に乏しきは遺憾なり、福島縣は面積百十九方里、戸數十八萬六千、人口百四十二萬にして福島市は縣の最北西端に位す東西一里、南北二十五丁にして戸數七千、人口三萬四千、縣廳の所在地、若松市は縣の西端にして人口四萬四千、郡山町は本縣の中央に位す人口二萬三千を有し、平町は縣の東南端に位す、人口一萬九千其他白河一萬七千、中村一萬二千等の町あり。

福島縣は土地概して肥沃なるを以て住民の多くは農桑を生業とす只た濱海道地方は漁業者あり、商工業は近事稍々注目されつゝあり、温泉には飯坂、湯野は都人士の遊地にして風景頗る佳なり、北會津の東山、石城の湯本、耶麻の中之澤、信夫の高湯、ぬる湯等浴客常に絶えず、熱海温泉は郡山の西方二里に位す温泉地として最も適當なるのみならず、近く郡山電氣の發電所を設くべく、海濱の風景としては松川浦の十二景、小名濱、鹽谷崎は著名なり、本縣は東北六縣中位置關東に近く、人智、向上發展しつゝありて益々人口増殖なしつゝあるは喜べき事なり。

東北と政黨

東北六縣に於ける政黨の勢力は衆議院議員の多少によりて其一斑を推知し得るなり。政黨内閣の下に於ては多少其一事を以てのみ論すべからざるも現下の勢力は稍其眞を語る者と爲すべし。大正六年解散前と改選後とに於ける東北六縣の衆議院議員は左表の如し。

縣別	政黨別		憲政會		國民黨	
	前	後	前	後	前	後
宮城縣	一	四	六	三	〇	〇
福島縣	三	三	六	四	〇	〇
巖手縣	四	四	一	二	〇	〇
青森縣	四	五	一	一	〇	〇
山形縣	三	六	三	一	一	〇
秋田縣	一	四	五	三	一	〇
計	一六	二六	二三	一四	二	二〇

即ち憲政會は宮城、福島、秋田三縣に勢力を有するも他の三縣に振はず。政友會は六縣共に優勢なるも福島に振はず、否福島の振はざるに非ずして憲政の大に福島に振へるを見るべし。改選の前後に於て多少の差はあるも六縣を通じて對照すれば、政友を四十二とすれば憲政は三十七にして國民は僅に四なり。

此の如く政友と憲政とは殆ど伯仲するも政友の稍憲政の右に出づるは事實なり。國民に至りては殆ど戰鬥力なしといふも可なり。而して獨り福島縣に於ける政友の振はず憲政の盛なるは何の爲めぞ。是れ畢竟其の幹部の勢力に基因する者なり。福島縣に於ける

政友の幹部と憲政の幹部とを比較すれば其の信望其の材幹は殆ど差なきも其の人員の多少と財力の多少とは政友の憲政に及ばざるを見るなり。一々其人を擧ぐるを憚るも事實即ち然るなり。而して此の勢力遂に消長すること無かるべきか。曰く大に之れあり。今や殆ど六縣の勢力に比例すべき時運を潜伏しつゝあるなり。

自由民權を唱導して政界を風靡したる河野磐州の如き才學絶倫の柴東海散史の如き福島縣憲政會の中樞人物たること久しきも二氏共に老を告げたり。大正六年の選舉に於て一は超然群を越え一は訴訟の結果得票同數年長の故を以て當選したるも、若し今後に於て改選の期に遭はゞ果して能く此の如き結果を得べきかは大に疑はざるを得ず。而して政友會には堀切善兵衛氏と八田宗吉氏とあり。共に其の好箇の人物にして緊禪一番せば縣下の政黨界に一革命を與へ得べき力あることを知る。されど彼の二氏にして手に唾して起つことなくんば則ち只反對黨の人物淘汰の自然に委せんのみ。余は私かに二氏に期待する所ありき。而して彼二氏相提携して政友の機關新聞たる福島民報の持主と爲れり此一事は聊か其志す所の一端を窺ふに足る者なり。然れども其の賢を用ひ材に任じ簡擇

宜しきを得るや否や、機關を利用するの才に富めりや否やは、今尙觀望中に屬し、輒すく斷定すべからず。

八

今期帝國議會に於て福島縣に郡部一名市部一名の衆議院議員定員の増加を議決したるが、之れにより近く其の選舉を施行せらるべく、其の結果如何は未知數に屬するも、政友果して勝を制するか憲政果して勝を制するかは余の大に刮目する所なり。

東北六縣の各黨勢力の消長は如何。果して現在状態を永遠に維持すべきか。憲政の勢を加ふるも政友の力を増すも一に皆人物吸收の如何に存す。憲法發布以來茲に三十年、當時憲法の何物たるを知らず政黨の何物たるを知らざる者多かりしも舊人は漸に去りて新人は愈益加はりつゝあり。而して今後五六年の後には殆ど政治思想の普遍を見るべき機運に向へるに非ずや。此時に當り各黨各其本領を發揮し常識を逸せざる言動を取り至誠至公以て事に臨む者は勝ち、然らざる者は敗れんのみ。

東北六縣は文運に於て實業に於て已に西南に後れたるは公定の事實なり。而して政黨の進歩消長亦大に之れに關するあり。己に後れつゝあるが故に黨人には種々の惡聲を傳

へ醜事の暴露を見たり。黨人たる者大に意を此に致し、而して眞の本領發揮に努力せざるべからず。然らずんば永久に西南地方に後れ、而して黨人根性の弊竇をして益助長せしめ、世人をして政黨の無用を叫ばしむるは勿論、事實に於て萎靡不振の状態に陥り了はらんなり。言危激に似たるも決して根據なき妄論には非すと自信す。若し妄論と爲す者あらば請ふ之れを將來の政黨に觀よ。

輿論とは何か

代議士の選舉は黨派の争え止むを得ずとするも縣會議員や郡會議員の選舉に迄で黨派争なすは現今の通例なり、甚だしきは市町村會議員選舉に迄で政黨に依るにありては其の愚憐れむべし。余は何等の政黨に關係なくむしろ政黨の不必要を叫ぶものにして從つて政友會憲政會並に國民黨いづれの政黨も理想的政黨と視るを得ざるもの、理想に近き政黨とせば憲政會位ならんか政友會に於ては其の主義主張と相反し只だ積極的主義は愚民をあざむきに過ぎず、余は近事新聞に雜誌に輿論なりと出兵の必要を云々なし又各地方にありては市町村議員選舉に輿論は彼の立候補を許さすなど、勝手な筆を取りつゝあ

九

るに啞然たるものなり。

而して此の輿論なりと稱するものは筆者一人の考にて地方民の關せざる多くを見る。其を具体的に言はんか近くは福島市に商業會議所設置を見、此れが議員選舉ありし時反對派の新聞は輿論なりと稱して盛に書き立て一市三郡共立病院議員選舉の際も又然り而して此れが小地方に及ぼす原町の如き町長選舉後に至るも輿論なりと稱して書き立てつゝある地方雜誌を見たり。

余は此の筆者が輿論なりと稱するは地方民の過半数が同意なるに依るか又筆者が感情上記したるを輿論となせしものなるか頗る不可思議に感ずるものなり。

而して比較的知識階級の少き地方民をあざむくに於ては實に言語同斷と言ふべし。

一体自治團體にあるべき市町村の選舉其他に政黨云々をなすさい間違なるに平穩無事に終了せし選舉後に迄で輿論云々を書き立てるが如き此れ筆者の罪にあらずして何ぞ。余は思ふ、輿論とは其の地方民の人口の約過半数の同意者あるか又は地方を代表すべき有力者の過半数は己れの行爲に同意し賛成せるものなりと。

福島縣は一体政黨熱の甚しき所なり、従つて何の選舉も政黨に依りつゝあるは悲しまざるべからず、福島縣の如き工業地商業地は政黨を度外せざるべからず、余は福島縣の盛衰の如何を考へるの時其の政黨熱の減じてこそ本縣の前途に洋々として望みあるを知るものなり。

余は本書を發行せしも政黨の事業に干涉の絶對不必要なるを表さんが爲もありき、而して福島縣民は御互に自重以て政黨の何物輿論の何物なるかを考慮せざるべからず。

此の項、野合政黨論を記載の處筆者某氏は病氣に就き不掲載せしは申譯なし御諒察あらん事を

市福島の將來

福島市の市制を施行したるは明治四十年四月に在り。爾來茲に十有一年、其間如何なる發達をなしたりや。三萬二千餘の人口は三萬六千を算するに至り、商業に従業する者は九百九十餘戸三千餘人は一千九百餘戸四千五百餘人となり、工業従事者は一千三百餘人



福島の市景全

より二千一百餘人となり、小學校は第一乃至第三なりしを市制施行と同時に第四の一校を加へ乙種商業學校を創立し此の大正七年四月より甲種商業學校に變更昇格し、明治四十二年には商業補習學校出で、職工徒弟夜學校出で、大正二年には産婆看護婦學校成り、成溪女學校成り、郡立農業學校成り、舊來の師範中學兩校及保嬰、實業補習、學半塾、訓官修齊女學等皆夫々に育英事業の發達を期し、明治四十一年福島圖書館を創立し、福島縣物産陳列館を創設し工業會社には共同生絲荷造所、倉庫會社の二社のみなりしに福島羽二重株式會社、玉絲改良株式會社、福島製板合資會社、丸イ倉庫株式會社、丸福製材合資

會社、福島染物株式會社、製陶所、其他二三の鐵工所、製板所等相踵ぎて出で、工業試驗場と共に各種工業の發達を期し、大正五年には福島蠶糸米穀取引所を解散し、六年には福島商業會議所を創立し、製氷株式會社創立の企劃成り、而して又公認競馬場設置の機運を開き斯くて商工業上に許多の變遷と發達とを表示しつゝあり。是れ市福島十有一年の概觀にして、市福島が實業方面に於て如何なる趨勢に向ひつゝありやを暗示せる者ならずや。従前の市福島は商業の福島なり。此處數年來の市福島は商業本位工業發達の福島なり。將來の福島は商工提携の福島なりと斷定するを憚からざるなり。然れども工業方面の知識は今尙幼若なるを免かれず。中央及近縣に於ける工業學校入學人員は年々二三十名に過ぎず。其學を卒へて事業を經始する者多くは他の府縣に於てし、來つて福島の工業界に貢獻せる者殆ど稀なり是れ福島の工業的知識の尙幼若なるを語る者に非ずして何ぞ。是れ從來の福島は工業的發展に心なかりしを證する者に非ずして何ぞ。然り而して福島が商業本位工業發達の地位より商工提携の地位に向はんとする今日に於て市民は如何なる計畫を立つべきか。

工業的技師を他より移入し、其事業を盛大にすると同時に少年青年の工業的知識を増進し志望を誘發し、而して其道の人材を増殖し、一面に於て商業上の材能をして愈益發達せしめ、商と工と相對峙し相親善し、以て此市福島をして商工本位の福島たらしめざるべからず。又一面に於ては大に國民道德を涵養普及し、商業にまれ工業にまれ將又農業にまれ、公益の爲めには私利を損するとも惜まず、公共の爲めには私情を抑制して顧みず、慾に薄く而して義に篤からんことを要す。此の如くなるに非ずんば縱令商工業上の進歩を見ると雖も、开は皮想の進歩に止まり根本常に動搖し眞の進歩發達を遂ぐる能はざるなり。

此根本的發達即ち道德的發達を期せんには必ず之れが指導者なかるべからず。亦必ず之れか鼓吹者なかるべからず。乃ち教育的人物の尊重を要し、之れが爲めには費用を惜まず、學校の増設を惜まざるを要す。誘導機關の確立を要し、之れが爲めには勞力を惜まず、費用を惜まざるを要す。消極方面には僥倖心の發作を禁遏し偏黨心の熱狂を防壓せざるべからず。彼の取引所解散の如き、青年團創設の如き、甲種商業學校開始の如き

成溪女學に於ける通俗講演の如き、市催各種講演會の如き、皆此目的に向つて進むべき一徑路たるを喜ぶなり。彼の商業會議所設立の如き亦大に我意を得たる者なり。而して偏黨心の時々事實に現はるゝあるは甚だ寒心に堪へざる所なり。彼の公認競馬場に於て馬券の賣買を企つるが如きは亦大に憂ふべき一事なり。

最後に一言すべきは、市民の團結心に乏しきこと是れなり、彼の政黨を利用して事毎に黨派的旗幟を樹つるとは同じからざるなり、市の爲め地方の爲めに爲すべき事業、執るべき方策の生じたらん際は市民を擧げて奔走盡力すると云ふ心に乏しきを惜むなり。彼の交通機關として福相鐵道敷設に關する一事の如きは、十餘年來の懸案なるに、之れを唱導する者あるも、應ずる者盡瘁する者甚だ少く、而して單に政黨の力を借りてのみ事を成さんと試みるに過ぎざるは何ぞ。情弊多き政黨の力を借るゝよりも、青年團の如き商業會議所の如きを利用し、彼の請願令の趣旨に基き當局者に向つて献策するの途あるに非ずや。此れを之れ取らずして殆ど自然の形勢を觀望するに止まるが如きは何事ぞ。敢爲の氣性に乏しく且つ一致團結して市の爲め地方の爲めに全力を傾注するの心に

乏しきこと以て窺知すべし。是れ只其一例のみ。希くは市福島の民、市福島發展に心ある者大に努力し、大に奮闘し、其將に進まんとしつゝある徑路に向つて、更に一步を進め以て其發達を快速にし且つ堅實ならしめんことを。

市福島の將來に期待するの事項固より叙上の卑見に止まらず。然れども其大本に至りては蓋し此に盡くるを知るなり。敢て大方博雅諸賢に質すと云爾。

福島縣の産業

福島市商業者の消極的にして只だ小利に眼を轉じ居るに啞然たるものなり、而して福島市の商人の一般が如何に時代遅れなるかを知るの時、吾人は市福島の今後の發展の程度を想へ悲觀せざるを得ず、福島縣は工業の勃興と共に商業の隆盛、而してこれが積極的方針を取らざるべからざるなり。視よ、福島市の商人と郡山の商人を對照するの時、福島市商人の幼稚なるに一驚なすものなり。福島市商人の多くは物品を東京方面より取引なすもの少なく多くは仙臺市又は郡山より取引なしつゝあり、これ畢竟福島市の時代

遅れを語るものと云ふべし、而して其の原因は福島市の商人に資本者なきに依らんも一に彼等の小利のみ考へ其の十呂盤にのみ依るものにして大膽に發展奮起せしめんとなすものなきに依るものなり。

福島縣中伊達郡の蠶業は第一に數ふべきものにして其れが原因として川俣の羽二重並に各地製糸事業の起るものと云ふべし中通地方の白河米は全國に名ありと雖も、只だ僅かに縣外に出し居るに限らる田村の馬は左程福島縣の産業に益するとは思はれず、會津の工業は只だ會津燒の名あるに止まりさしたる影響なく、只だ石城地方より産出さるゝ石炭は福島縣の誇りのみ、其の海岸通りよりの漁業は殆ど微々たるものと云ふべし。

然らば福島縣は蠶業國にして石炭國なり、而して石城平は石炭に依り發展なしつゝあるに福島市商人は何等奮起せざるは吾人の遺憾とする所なり。

蠶業國の結果は各地に製糸工業勃興せり、而して人口増殖の一起因となれり、然るに未だ福島市の商人の覺醒せざる誠になげかはしきものと言ふべし。

郡山は其の産業に於て大なる物産なしと雖も、大會社續出と共に商人の活動に依り今

日を造るに至れり福島市亦阿武隈の水利權を得、近く一大電力を供給出来る時機來るものなれば、従つて工業會社の勃興火を睹るより明なり、此の時福島商人は十九世紀のまゝに進むとせんかついには福島市は郡山に及ぶ事遠ざかると言ふべし。

吾人は其れを悲むものにして是非福島市商人の覺醒を希望するものなり、福島縣の物産は他縣に比し決して劣り居るものにあらざる事其の當局の調査に依つて知るべし。

積極的なる郡山町

郡山町の進歩は漸次世人に認めらる、其の二大製糸場と一大電氣會社は正に郡山をして工業地として商業地として導きつゝあり、然り而して吾人は郡山を視るに消極的なる若松市や今漸く發展なしつゝある平町及び保守的な福島市と同一に論ずるものにあらず、其の何より第一に吾人を驚かし何より第一に郡山町を發展に導きつゝあるもの郡山電氣の電力の供給絶大なるに依るものなり。

東北本線は白河に入つて福島縣となり郡山町に達する僅かに一時間のみ磐越線は東西



郡山町停車場前

に分れ、一は若松新潟に、一は磐城平に達す。更に東北本線は福島市に一時間半を要して着すべし、會津を中心として東北一帯に於ける一丈餘の積雪は獨り交通問題とのみ言はず國力一般の視聽を其の上に集めつゝあり商工業の隆盛を實にかゝる雪に於て打破さるものと言ふべし。この點に於て郡山町は交通上に於て安全點にあり物産の集散地としてかくの如き便宜の都市他にありや、吾人は郡山を第一に數ふもの實にこゝに意義あり、尙ほ更に郡山は工業の實質を備へ居れるに依る、聞く福島に阿武隈川を利用して一大電氣事業を起さんとこれ只だ夢想のみならん、吾人は其の實現を希望するものなれどそ

は到底不可能なるを知れり、又言はん公認競馬場地認可後の福島は一層盛ならんと、然り盛んならんもそを商工業發展と斷言するは餘りに大膽なり。

時代は既に工業の世界を現出なさしめつゝあり、故に郡山は今やその代表たる工業の起源地として既に實質を備へるものと云ふべし、吾人は福島市の爲めに郡山町の隆盛を悲むものなり。

新聞雜誌と記者

福島縣に新聞雜誌の發行多きは東北一と云ふも過言にあらず、これ時代思想の發達に起原し、所謂言論尊重を意味するものなり、而して四頁新聞にして狹少なる市より多くのニュースを機敏迅速に蒐集し報道論議し居るは各記者の努力に依る、日刊新聞は福島新聞、福島民報、福島民友新聞、福島日々新聞(創刊順)にして東京新聞の支局は報知、國民、中央、やまとにして月刊旬刊としては新東北、警醒、東北評論、實業之東北、福島公論、大正福島實業新聞等あり、若松に會津日報、郡山に東北日報、郡山新聞、白河

に白河新報、川俣町に二七新報、平町に磐城時報、磐陽新報等あり。

記者の重なるは民友の(長崎、佐藤、阿部、渡邊、大内)民報の(高橋、佐藤、志賀、安齋)福新の(三田、釘本、大内、米谷)日々の(柳澤、中目)國民の(齋藤)中央の(渡會、大和)報知の(伊古田)やまとの(井上)郡山には菊地不非氏、平に高鹽氏等である、新聞記者に對して余は云々する事は間違であるかも知れんが先輩記者に對して敬意を表して余は一、言此の欄で駄言して置きたい、布衣の宰相、又は無冠の帝王と言ふ語は新聞記者に對して用ひらるゝ社會の尊稱である、曾てナポレオンが強き敵の一ヶ師團より何等武裝せざる記者の一團こそ恐ろしけれと云つたと云ふのでないか、故にかくの如き強き力のある筆を左右する記者は自己主義、金本位では我輩は敬する事が出来ない、新聞記者は社會の第三者として正義であらねばならぬ、これが爲めには小我を排し小主觀を抛ち自己なるものを没却しなくてはならぬ所謂純正無垢なる自然人として嚴高なる理想を有し不偏不黨公平無私であらねばならぬ。我輩が福島縣に在住する幾十の記者はこの精神で社會を處理し教導してもらひたいのである。

一の新聞雑誌を土臺になしその新聞の隆盛は自己の幸なりと金本位奮闘(廣告取り)し居るものは職務に對して忠實なれど其れが爲め新聞雑誌を惡利用せるもの福島縣に多々ありこれ等は記者の立場として排斥しなくてはならぬ、廣告募集員と記者は別である、一は營業に一は社會の教導者に全々區別されてる。

吾人は廣告募集員(所謂社員)と記者とを區別すると共に社員にて記者然たるものを彈劾しなくてはならぬ、然して記者諸君も劣等の人格を排斥しなくてはならぬ、而し社の經營上記者にして營業をも兼ねるものあれば全々排斥すべきものにあらざれど、なるべく記者と社員とを區別したのである。

各銀行會社

郡山電氣株式會社

は麓山公園共樂園の北にあり、沼上に發電所を有す、里程拾四哩の疏水を利用して電力を起す、大正六年夏井川水電株式會社と合併し二百萬圓の大會社となる、而して尙カーバイト會社、常葉電氣會社、皆郡山電氣の經營に

移り、現在の動力は沼上第一發電所三千キロ、夏井川二千キロ目下沼上第二發電所の三千キロ、四時川千三百キロ等工事中にして、更に計畫中なるは沼上第三發電所四千キロにして其の區域安積全部に及び田村郡、石城郡の一部に及び其の點火總數二萬四千餘燈にして更に將來二萬燈の増加を見るべきか、而も第三發電所(熱海)の四千五百キロは二千二百五十キロは特別に契約し料金は現在販賣價格にして殊に殘餘の動力は各方面より申込あるも郡山町の前途洋々たるを見越し輕々に豫約せず、目下三ヶ村の水利權を出願中なりと、本會社長は郡山町の有力家にして大人物たる橋本萬右衛門氏、取締役專務は現本會議員にして町長たる根本祐太郎氏なり、其隆盛旭日昇天の如し、更に第一首席書記藤田平重郎氏は努力奮勵なしつゝあれば前途益々望あり。

第百七銀行

福島市に在り頭取内池三十郎氏、支配人小林富吉氏にして東北第一の銀行資本金貳百萬圓なり。

岩代銀行

福島市にあり資本金五拾萬圓、頭取吉野周太郎氏、取締役兼專務西谷小兵衛氏、支配人林信行氏なり

磐城セメント

四倉工場

耶麻軌道部

營業事務所

日本硫黃株式會社

沼尻硫黃事務所

藤田信託株式會社

福島銀行

資本金拾萬圓にして吉野周太郎氏頭取、支配人湯川廣氏なり

福島商業銀行

資本金壹百萬圓、頭取草野半氏なり

福島縣農工銀行

資本二百萬圓、頭取加藤寛六郎氏

鈴木實業銀行

資本金五萬圓、鈴木周三郎氏支配人堀江九郎氏なり

福島信託株式會社

資本金拾萬圓、專務取締社長金澤忠右衛門氏なり

東海信託株式會社

資本金五萬圓にして社長大原一氏專務取締役は本

田憲、寺澤元廣の二氏株主配當は一割二分の成績なり

藤田信託株式會社

伊達郡藤田町にあり資本金七萬圓にして最好評に

して信用あり專務取締は紺野金治郎氏で、温良篤實の紳士であつて株主配當は九分強である。

伊達信託株式會社

資本金拾萬圓、伊達郡桑折町にあり社長は大沼氏

なり

保原共益信託株式會社

伊達郡保原町に在り、資本金拾萬圓なり

社長は小野茂右衛門氏支配人は安田亥一氏にして地方唯一の信託會社にして隆盛を極む
福島電燈株式會社 最も勢力を有する會社にして社長大島要三氏瓦斯會社と合併後其獨占なり

夏井川水電株式會社 郡山電氣と合併せり

日本硫黃株式會社沼尻硫黃山事務所 耶麻郡にあり

東洋第一の沼尻工業所にして三千尺の高處にあり日本硫黃會社の耶麻軌道部の輕鐵に乘じ一時間にして終點大原に着し大原より僅かに二十丁なり所長は今戸村にあり、而して

軌道部 は川桁驛前にあり、營業所長は**桑原虎二郎氏**にして温和快

活の人物**會計主任松本氏**又奮勵努力の人物なり現業員五十人にして大正

二年五月營業を開始せり乗客年四萬を數ふ川桁より大原まで十哩にして一時間にして達すべく乗客は中の澤川上横向沼尻の各温泉の浴客多し所々の風景は實に形容の句なし耶

麻郡の發展は實に軌道會社に依る事言を俟たぬ

富國館、山十組製絲、佐野製絲、双葉館、岩代製

絲場、小口組製絲の各製糸場は別項參照

磐城銀行 石城郡平町に在り資本金七十萬圓にして濱海道第一の銀行になり取

頭は白井博之氏、支配人は石城郡會議員たる横内直温氏なり

平銀行 平町にあり資本金五拾萬圓頭取は山崎與三郎氏支配人神谷辰五郎氏なり

福相銀行 福島市にあり頭取朝倉卯八氏にして相馬郡原町中村等に支店を有す

平信託株式會社 政友會の雄將佐藤庄太郎氏支配人なり、平一流の信託

會社なり

保原倉庫會社 伊達郡保原町にあり日本銀行指定倉庫として最も信用あり

太宰銀行 保原町に有し太宰氏の經營したる銀行にして信用あるは勿論東京に

支店を有し居れり本店に菅野支配人あり努力奮闘の人物なり

藤田組製鋼所 河沼郡藤田にあり猪苗代水電の電力を以て製鋼しつゝあり

工場は東北一にして職工六百人以上を使役なして居る所長は田鶴彦一氏で大學出身の紳士なり

信夫郡野田村

富國館製絲場

電話六二一番

相馬郡中村町

佐野製絲

中村分工場

磐城セメント會社

石城郡四ツ倉町に在りセメント工業所にして規模廣大四ツ倉町民はセメント會社に依つて生活しつゝありと言ふも過言にあらず所長は岡田氏にして温良の紳士なり

小名濱信託株式會社

石城郡小名濱町にあり只た一つの信託會社にして支配人橋本寛氏は努力奮闘の人物なり

中村信託株式會社

相馬郡中村町にあり相馬一流の成績良好なる信託會社にして信用最も厚し

本縣の製絲場

附、山十組、富國館、佐野製絲、川俣製絲、双松館

岩代製絲、小口組、五十澤製絲、長岡製絲

佐野製絲場主と田附五平氏

佐野製絲場は福島縣に最も深き縁ある製絲場にして明治十八年宮城縣伊具郡金山町に創立され、目下金山を本製絲工場となし本縣中村町に東西二分工場を有し全釜數五百にして佐野理八氏の經營に依るものなり先代理八氏は滋賀縣神崎郡佐野村に生る製糸工業に就ては最も意を用ゐる是が研究の爲め洋行するに至る二代目理八氏は現佐野製糸場主にして明治十九年十二月十四日一代目理八氏が當時福島町に小野組奥羽七州の總支配人として殊に二本松製糸會社長として後日天下に名を成し生糸改良の素地を造りつゝある即ち苦辛經營多難なる際に生る幼名を市造と云へ大正四年八月理八と改名一代目理八翁の偉業と共に襲へるものなり氏は明治十五年齡七歳にして福島町小學校に入學し後慶應義塾に入り轉じて青山學院高等科に入りしが兎角く健康勝れず爲めに中途退學してより専ら英國人ハリー、アル、ピリー氏に就て英文學を學び而して専門の學科を修むべく米國に渡航せんと準備せしかど高木兼寛氏等の忠告に依り健康恢復を待つて遊學なす事として中止するに至れり是れより氏は翁が命に依り金山測候所の設立準備として文部省中央氣象臺に入り氣象觀測法を習得して金山測候所に長たり是れより専心家業たる製糸場に就

職せしが此の間に於て蠶業唱歌、工業と氣象、日本蠶業政策等の出版物を著したり、然して目下宮城縣及福島縣下の大會社の取締役或は顧問十數あり

田附五平氏

は佐野製糸場の功勞者にして參謀たり氏は近江國佐野村に至る十一歳より佐野製糸場に入り頭腦明晰なる氏は漸次重職に進み目下佐野製糸の支配人として又中村分工場主任たるの要職を掌握するに至る、氏は性温良にして機智に富み誠意奮勵職に當り献身其責任を盡す、明治四十三年大改革以來は一層奮勵益々氏の特長を發揮せり、依つて大日本蠶種會及宮城縣機械製糸同業組合より功勞章及褒章を贈與されたり、相馬の地に製糸工場の必要は現相馬郡長吉野勝氏は時々吾人に語る所なり、此の時佐野分工場は二百幾十の釜を利用して經濟界を調和し進んで相馬發展の區域に入らしむるもの之れ佐野理八氏の先見の明なるを稱するものたらんも同主任たる田附五平氏の奮闘努力に俟つ所あり従つて今後氏の活動を希望するもの相馬地方の人士のみならず一般縣民の切望する所なり。

あかんぼうの出来る名湯

五色温泉

宗川旅館

山形縣板谷驛ヨリ三十丁

祝發行

郡山電気株式会社

今組製絲場と味澤氏

東北人を覺醒させる無二の製絲場

福島縣の爲め幸なるか不幸なるか

吾人は福島縣の工業化を喜ぶと共に將來の福島縣は如何に多幸なるや又不幸なるやを考慮研究の必要あり而して工業の發展は現今の福島縣の隆盛を語るものにして是れが爲めに人口の増殖となり、人口の増加は蓋し進歩の一起因なり、福島市に今組製絲場出でる説あり、時吾人は其の企業者の何者なるやに頗る興味を感ず其の一日も速に設立を希望なしつゝあり、然るに大正六年一月市會の決議に依り市の西方太田口に一大工場を認可を得たりき、これ現主任味澤今朝治が寢食を忘れての運動に依るものなりき。

かくして大正六年十月中旬工事の竣工を終へ十一月廿三日盛大なる開業式を舉行せり現今組の釜數六百五十にして工女八百人其の坪數實に二萬三千坪なり同工場の本店は信



今組製絲場

州平野村に在り三千五百釜を有す、組長小口村吉、小口今朝吉の兩氏なり、而して全國中に今組の製絲所の釜數一萬三百釜と稱さる他にかくの如き製絲場はなき事余の言明のみにあらず農商務省に於ての調査に依るものなり、現福島工場長は味澤今朝治氏にして前に一の關支店長として在職七年東北製絲界の雄將なり。

さりながら吾人は今組に福島市に一大工場を建立され益々隆盛なしつゝあるは吾人は幸なりとするか、又不幸なりとせるか少くともこれ東北人の事業の不誠意なるを語るものにして而して信州人と東北人の優劣を比するものの大なる目標なりと信ず、然り吾人は福島縣に資本なく

起業家なきを憂ふるものにて將來の福島縣に就て寒心に堪へず、されど之れ人士地方的區別に依る最も淺慮の結果にて福島縣の工業化を福島縣民は喜ばざるべからず、人口の増加は地方開拓の一原因なるは吾人の喋々述べるの必要なし、故に福島縣に鑛業なり工業なりが各處に勃興するは人口増殖の秘訣なり、然らば今組の福島市に建立經營されし事は福島市の人口を増加し福島市の商工業を發展せしむるものにして吾人は其の誰人が經營なすや否やの狹論をなすの甚しき愚なるを感ずるものなり、然して今組製糸所の設立は福島市隆盛の一起因なると共にこれが設立に運動せし味澤氏等に市民は厚意を持たざるべからず、味澤氏は記者に福島市有力家の厚意を感謝し居る事を言明せしも之れ味澤氏より尙市當局者は氏に對して感謝せざるべからざるものと考るものなり、吾人は今組製糸所の益々發展するは福島市の盛衰と密接の關係あれば同製糸場の隆盛を希望すると共に味澤氏等の壯健を祈るものなり、聞く同製糸所は縣下に於て最も工女の待遇宜しく工女等は喜びつゝありと、これ其の經營者の方針の宜しきに依るものと言ふべし。

富國館製糸所

信夫郡野田村に宅坪數一萬八千坪を利用なせし富國館製糸場は釜數一千を工女千二百人にして本縣第一の製糸場なり本工場は信州にあり、二年以前設立せし工場にして工女の慰安其他模範的にして好評あり場主は兩角氏なり。

双松館製糸所

製糸界ノ王山田一氏ノ經營

吾人は製糸界の元勳山田修氏の過去の製糸事業に對してなせるを記述せざるも既に縣民の知れる所なり、故に現所長山田一氏の經營方と現双松館に就て述べ従つて二本松の製糸場はいかに福島縣に有益なるやを記さんとす、山田一氏の經歷は人物欄に記載しあれば其經歷は別となし、いかに氏は斯界の爲めに努力奮闘なしつゝあるかを記さん。

吾人は福島縣の工業化しつゝあるを最も喜ぶと共に近く一大工業國となる本縣の前途を祝福するものなり、而して是が祝福の原因は各町村に工業事業の勃興し居るべきに依るものにして吾人をして一步を進めて希望を述べよとせば福島市の製糸場と對照する製

糸場が必ず一町に一設立されん事なり、勿論需要あつて供給あるべきものなれば各所に製糸所の設立は或は無質の甚しきものならんと言はんも福島縣の如き蠶業國に決して必要なきものにあらず、故に双松館が二本松の地にあるは福島縣は工業國たると云ふを表し居るものなり、現双松館は其の釜數三百、工女三百五十人全坪數五千坪と稱さる、工女の待遇ことによく而して山田氏は本縣製糸界の雄たるに依り其の經營する製糸所も理想の製糸場と認めらる、吾人は本縣製糸界の爲めに山田一氏の奮闘と其の壯健を祈り併せて益々双松館の隆盛を祈るものである。

郡山町の二大製糸所

片倉組と小口製糸

郡山は其の實質は既に工業國を具備して從つて其を語るものは郡山電氣と岩代小口の二大製糸場は代表してると言はねばなるまい、吾人は本縣中最も堂々として努力奮闘なしつゝある製糸場を數ふるとせば第一に岩代製糸場を數へ、第二小口製糸所を數ふ、

而して其の釜數に於ては二製糸場に優る富國館はあらゆる事に就て敬服が出来ないのである、工女の待遇方など最も然りと思ふのである然して郡山の岩代製糸は釜數八百五十工女九百餘にして小口製糸場は釜數六百五十、工女七百餘にして福島の二製糸場に比し優るとも劣るものでない、而して其の大局に向つて努力奮闘する處、福島には山十を數ふのみにて先づ郡山の二製糸場に比し、福島は一段下ると言はねばならぬ、吾人は郡山町の市區改正も其他の發展も皆片倉組小口組の二大製糸場に依るものと考ふるものである岩代製糸所は支配人林清夫氏温良篤實の紳士にして努力奮闘の人物、小口組は小口氏にして之れ又徳望あり共に製糸界の將である。

伊達郡有名の製糸場

川俣製糸場と安田氏

川俣町は機業地として知らる、然るに一の製糸場をも有せざりき掛田町の安田常作氏は之を憂ひ、川俣製糸場を創立するに至れり、全釜數二百、工女二百五十人を有し支配

人鈴木氏よく圓滿に事故なく奮闘なしたあり、伊達郡中長岡、五十澤と共に三大製糸場として知らる、川俣附近一帯に蠶種家多ければ同製糸場の前途洋々たる云ふべし。

長岡製糸と五十澤製糸場

佐藤儀四郎氏と岡崎嘉市郎氏

佐藤儀四郎氏は一躍舊長岡製糸場を資本金五十萬圓となして同時に株式組織とす、釜數をも増加せしことは既に新聞紙上にて發表されてる、又今後の氏の活動も豫期されてる、五十澤製糸は岡崎嘉市郎氏が社長で伊達有名なる製糸場である、共に二製糸場の隆盛を希望する。

本縣之二大鑛業所

東洋一の製鋼所

廣田の藤田組

「現代之福島」を發行せんとするに際して特に余は工業の進歩發達を希望するものである、而して一の製鋼所を紹介すると云ふ事は最當を得たるものと思ふのである、磐越西線廣田驛を離るゝ僅かにして藤田組製鋼所がある、所長は田窪彦一氏にて法學士快活にして頭腦明晰果斷に流るゝ如き手腕あり、同製鋼所の目的は合金合金銅純金屬等の製造を主となし動力は猪苗代水電の電力にて大正五年三月から開始したのである、事務員六十人、人夫七百人を數ふ一大工場である、一体廣田は河沼郡日橋村にあり會津若松に近しと雖も、其の交通及事業に於て決して豊富なるにあらず、而るに今日廣田の隆盛は何に起因するや、此れ皆な藤田組製鋼所の爲めなり、余は同所の益々發展されん事を望むものにして同時に所長田窪氏の手腕の表すべき時機來るは目前なり、而して藤田組はかの鑛業に絶大なる勢力ある「久原」に一籌を輸せしむる事近き將來にあるを思ふ、時藤田組の前途を祝す希望を以て見るものなり。

大日本硫黄株式會社沼尻鑛業所

四二

吾人は廣田の藤田組製鋼所を紹介すると共に會津工業の起因たる沼尻硫黄山を紹介せざるべからず、同所は硫黄の製造を目的となしたる會社にして更に東洋第一と云ふも過言にあらず、其の事業の區域河沼、耶麻の二郡にわたる、我が國に於ては硫黄の製練所少く爲めに最も困難し居るものにしてこの時耶麻地方の硫黄の出現し大成績を占め居るは實に工業界の一新紀元なり、所長は今江氏にして温良實直よく數百の人夫を意のまゝに使用なしつゝあり。

各地百方面

谷口樓料理店

磐城の平町に廣大にして清雅なる料理店は谷口樓と曰ふ樓主は谷口眞章氏にして料理店及藝妓屋中に嶄然頭角を表はしたる人物にして花柳界の隆盛なる平町に百有五人の藝妓を有する藝妓組合長として圓滿なる發展を爲さしめつゝあるは氏の方なり庭園は樹木花草水石の數寄を凝らし三層樓上に登れば全町二萬

の人も双眸の中にあり花晨月夕坐ながら浩然の氣を養ふを得ん内藝妓五人妍を争ひ芳を聞はす者亦一流の名あり

未廣會

此の名稱に依れば何の會なるを解するに苦しむ人あらん福嶋市に於ける只だ一つの義太夫傳習會である師は竹本若水で曾て大正館で大好評を得た事がある福嶋市早稲町に事務所がある目下の會員が八十人程で益々隆盛を極てる

私設待合所

此れは福嶋停車場構内の待合であつて設備が完全して而して最も廣くやつてる伊藤氏の經營するもの旅客に最も評判がよい伊藤氏は義太夫に於てはそれは上手だが未廣會に入つてるや否やは讀者に一任する

百華園

福嶋市の北信夫山公園下にある其の名の如く百花が見事に咲いてる坪數は餘程廣いからわからない春秋に百華園の二階で一盃飲み四方の景を見るも格別だこの主人を戸田安太郎氏と云ふ盆栽などについては特に熱心だ日曜などに見に行くも面白いでないが

八島屋洋品店

福嶋市本町にあり帽子洋傘メリヤス等は新式にして勉強する商店なり福嶋洋品店中同店の右に出づるものなしとの評あり

文榮堂商店

福嶋市第一の筆製造本店にして何と云つても毛筆は文榮堂に限ると云ふべし

大正館

天然色活動寫眞會社特約の活動寫眞常設館にして北條安吉氏の經營なり西洋劇、舊劇に特に好評なり舊劇は澤村四郎五郎市川延十郎一座のものにして觀客は大喜びなり辯士又相當なり

一市
三郡
共立福島病院

西川齒科醫院

西川正一

四四

平岡醫院
角田一二

郡山町

齋藤齒科醫院

齒科醫齋藤誠一

伊達郡保原町

太宰銀行

共益信託株式會社

伊達郡保原町

保原倉庫株式會社

第一百一銀行

伊達郡梁川町

四五

日本活動寫真株式會社
直營

株式會社 福島座

飯岡秀雄

天然色活動寫真株式會社
特約

大正館

北條安吉

流行の魁

勉強なる店は

八島屋洋品店

帽子洋傘メリヤス各種

福島市本町

電話三六七番

福島座

日本活動寫真株式會社直營にして西洋劇新派に重きを置き好評なり舊劇は尾上松之助ものにして觀客を喜ばせ西洋劇は大物を上場するだけ好評がある營業主任は飯岡秀雄氏で世間の評判では成金になつたさかなり
そつたさか兎も角く財政豊なり辯士は一流の岡庭梅洋君以下好評なり

平館

磐城平にあり天活特約の館にして好評なり松田卯太郎氏營業主任なり

廣瀬庵

福島市のそば屋中で一流と云ふ人があるがやつぱり伊勢館は一流だ廣瀬庵は娘二人の爲めに繁昌してゐるさうだが、その譯はなんだかわからないが成金と云ふ名前が出たか解らない

大和田牛肉店

福島市一流の牛肉店である牛鍋は牛も上等だが高いこの評判

米澤牛肉店

福島市榮町にある牛は大和田に劣るが美人が居るが客が多い

西川齒科院

好評であつて技術は一流だ

山口屋醬油店

置賜町にある醬油店としては勉強で又一流である

喜多三呉服店

一流の呉服店である勉強してゐる客も多い

玉屋

福島一等の菓子店である高木屋も一流だが玉屋は少し上の方にある

伊野村酒店

主人は努力奮闘家で勉強であるので評判がよい

立花時計店

福島市中町にある市内一流の時計店で好評である店主店員一同努力奮闘は模範である

桐澤醫院

開業醫院中最も信望ある患者はいつも満員で門前市をなして居る

平岡醫院

中町にあり内科小兒科で最も好評である

照内醫院

産科婦人科醫院として最も好評がある

松永商店

相馬郡原町松永留之助氏の松永商店は地方一流の商店のみにあらずして實に縣下著名なる大商店にして主人松永氏は慈善心に富み夫人又柔和にしてよく店員の多くを圓滿に使用なしてあり特に同店の隆盛を希望す

各地の温泉

現代之福島であるから各地の温泉とした所で記事の範圍がある、福島縣に最も關係ある山形縣の五色と宮城縣の峨々温泉を特に記す

五色温泉

奥羽線板谷驛の西二十丁不忘山の中腹に在つて海拔三千尺の高處にある、冬期には雪上を滑走するスキ一の設備もあり風景絶佳避暑の絶好地である、旅館は宗川合名會社の五双樓のみにして温泉旅館として設備完全なる事東北第一である、而も低廉にして勉強なり、婦人病には第一にして他に胃病などもよい、あかんぼうの出來

る湯これが五色温泉の代名詞にして全國に著名なり浴客千人を入る事が出来る。

名湯ねる湯温泉

福島市より四里、奥羽線庭坂驛より二里半、吾妻山中腹に位し、海拔三千尺の高處にある、姥瀧の風光は都人士の絶好の趣味あらしむる瀧にして吾妻小富士に僅かに一里にて達し夏日雄大の氣を養ふに足る附近一帶の奇觀と云ふべし、二階堂伊藏氏の經營の旅館にして其設備完全なり、眼病には特に効あり實に全國有名なる名湯と云ふべし。

飯坂温泉

温泉地と云ふより遊樂地と言ふ方が適當だかも知れん 藝者も公娼も居る温泉地で有名だ、風景もよく摺上川の舟遊などは面白いではないか福島から二里半自働車の便輕鐵の便等あり

桑折温泉

温泉だかなんだか解らない湯の効なども疑問である

湯本温泉

石城の湯本にある男女混浴の所もあるから警察當局は注意するがよいと思ふ、温泉は飯坂と同じく湯本の藝者などは奮つたものだ

東山温泉

飯坂と同様に温泉地としてより遊樂地と見做す方が適當だかも知れ

ない、藝者五六十人も居つて淫賣が盛んであるとの評がある

高湯温泉

福島市より三里半奥羽線庭坂驛より徒歩するを便とす、同驛より二里海拔三千尺の高處にある夏日蚊聲も聞えぬ、不動瀧、小瀧、熊瀧などがある、旅館が四軒あつて完全してるが内玉子湯旅館は完備してるのみでなく主人初め皆な親切に客を扱つてるから高湯温泉第一の好評あり、従つて浴客も一番多い而して玉子湯の前面に小瀧が澤山あつて風光頗る佳である

横向温泉

は耶麻郡川桁から輕鐵に乗じて大原に行き大原より二里弱で有名な温泉である、磐梯の雄姿は遠く見る事を得る附近檜原湖其他の大小の湖あり夏日の舟遊又自然の人たらむ實に同旅館に於て雄大の氣を養ふを得ん、風景よく然して旅館は阿部庄八氏の下の湯は親切で種々便宜を與へて居る、阿部氏は温良中に氣骨あり快活な人物である浴客常に二百人以上を扱つて居る好評であり且つ湯は名湯の名にそむかない

中の澤温泉

磐越西線川桁驛より軌道に依り一時間にして大原に着し大原より八丁にして同温泉に達する秋元湖が附近にある實に世界的避暑地である、たゞ旅館の

福島市新町

東海信託株式會社

福相銀行中村支店

相馬郡中村町

相馬銀行

伊達郡川俣町

相原齒科醫院

每五ノ日掛田町出張

福島市大町

伊藤齒科醫院

製造所 新井政吉

菊印石鹼

川俣町

農商務省御用

相馬郡中村町

幾世橋醫院

中村信託株式會社

福島市上町一三

荒川齒科醫院

電話 一一二六

福島市早稻町

菅野醫院

菅野健次郎

外科皮梅科

安齋齒科醫院

福島市早稻町

私設待合所

停車場構内

設備が充分でないのは困る、白城屋は一番よいこゝに旅館が六軒ある藝者と呼ぶ私娼が居つて午前一時より翌朝迄一圓位で淫賣なすとは驚かざるを得ない、こんな事は絶体に禁止する方温泉の爲めと思ふのである。

土湯温泉 信夫郡にある金谷川驛から三里である、腦病に特効あると云ふ其の不潔にして養蠶をやる爲めに其の室の不潔驚くべしだ、一番佐久間氏の旅館が完全して
る様だ

峨々温泉 宮城縣唯一の名湯海拔三千尺の高處にある、白石驛から六里輕鐵の便がある、不動、大瀧、二階瀧、千丈瀧等の見るべき所ある旅館又完全して

野地温泉 は土湯と中の澤の中間にあるがあまり知られてる温泉でない

高玉温泉 磐越西線熱海驛より五丁、宿屋はいづれも餘り完全してないが宮戸

川支店の旅館と片倉組で小口氏の經營した新旅館は完全して、従つて郡山電氣の發電所新に設けられしは同温泉の爲めに喜ぶべし

沼尻温泉 磐越西線川桁より大原に行き大原より一里半にして沼尻温泉に達す

る旅館は花見屋、田村屋共に好評にて完全して

當面の人物

鈴木重郎治氏



鈴木重郎治氏

本縣の政友會には人物が多い堀切善兵衛氏は別として石城には高岡唯一郎氏が居る、福島市には鐸木三郎兵衛氏が居る、而し全体から見ると憲政會に劣る河野廣中は老へたれど會津には柴四郎、更に鈴木寅彦が居る、田村

に菅村大事が居るではないか、而し此れ等は過去の人である、少くも當面の人は意氣あり、従つて地方問題の中心人物であらねばならぬ、政友會の八田宗吉は鈴木寅彦に代つたのも之が原因だ、中野浩忠、菅村大事は時代から追れた自己本位の人物である。

残る所は鐸木三郎兵衛で、彼れは未だに中央政界に出た事がない、彼はついに目的は達しられまい、余はかく本縣を見るに鈴木重郎治氏を數ふるのみだ、役は目下政友會の雄將として福島縣の政界に出て重視さるゝも遺憾少數黨の人物である、故に横暴極まる反對黨に對する策はあろう筈はない、彼れはこの點で比較的知識階級の少い縣會の席にあるを遺憾と思ふだろう、彼は近く時代の風雲に乘じ中央政界に出る人物だ。

余は鈴木重郎治氏を月旦なすの資格は勿論なく、氏を批評して其人格を云々するは甚だ自己の無暴なるを恨むさりながら彼を批評するが目下の必要事と思ふ、彼の白頭は第一吾人に異様に見える、小高町を盛岡市と假定して鈴木を原敬にせば如何、余はなんとなく彼に小、原の名稱を附けたい。

彼が縣會に於ての言論はいつも中心を取つて新田目や中野の様な女性的の言葉は少

しもないのである。

相馬双葉二郡の有志は彼れをどうしても中央政界に出したいと語つて居る、彼は其れを知つてるか否やは別として常に彼は世人に信用されてる事はこの一事でも解る、原町町長問題に敗れたと思ふだろうが彼は最初からその迷惑を感じ辭退してたのである、原町に人物なし其れを判する事が出来ないのは悲しむべきと言はねばならぬ。

さりながら中村にしる原町にしる鈴木位の人物があるか彼れ位の手腕あり頭腦明晰な人物は遺憾ながら見當らぬ。

地方の爲めに政黨争しても駄目だ、なに程彼は政友會だが憲政會の半谷某に優る數等上にあると思ふ、彼れを代議士として中央政界に出したいのは相馬、双葉の郡民のみの務ではない、實に人物本位として福島縣全体の縣民が選出しなくてはならぬ、我輩は彼の行動を深く知り其の代表人物なるを知り一層彼れに對して尊敬してゐるのである。

草野 半氏

大島要三が東京に移轉すると云ふ説が事實に近いと云ふと福島市は誰の舞臺



なるか余は草野半氏であると某政友會の人物に話したら、そうかねい、そうなるかと福島はどう變化するだろう、そうして金澤、西谷はどう云ふ風に策戦するだろうと聞くから余は再び草野と云ふ人は比較的自治會の人物にも好意を有されてるし、彼は市民一般に何事かをなすと望まれてるから彼は正々堂々福島市を料理する事が出来ようと答へたら君の言ふ事も最だが、而し草野は政

界に出る考がないから君の豫言は適中せんと云ふ故に余は其れは貴下の御考違いと云つて置いた。

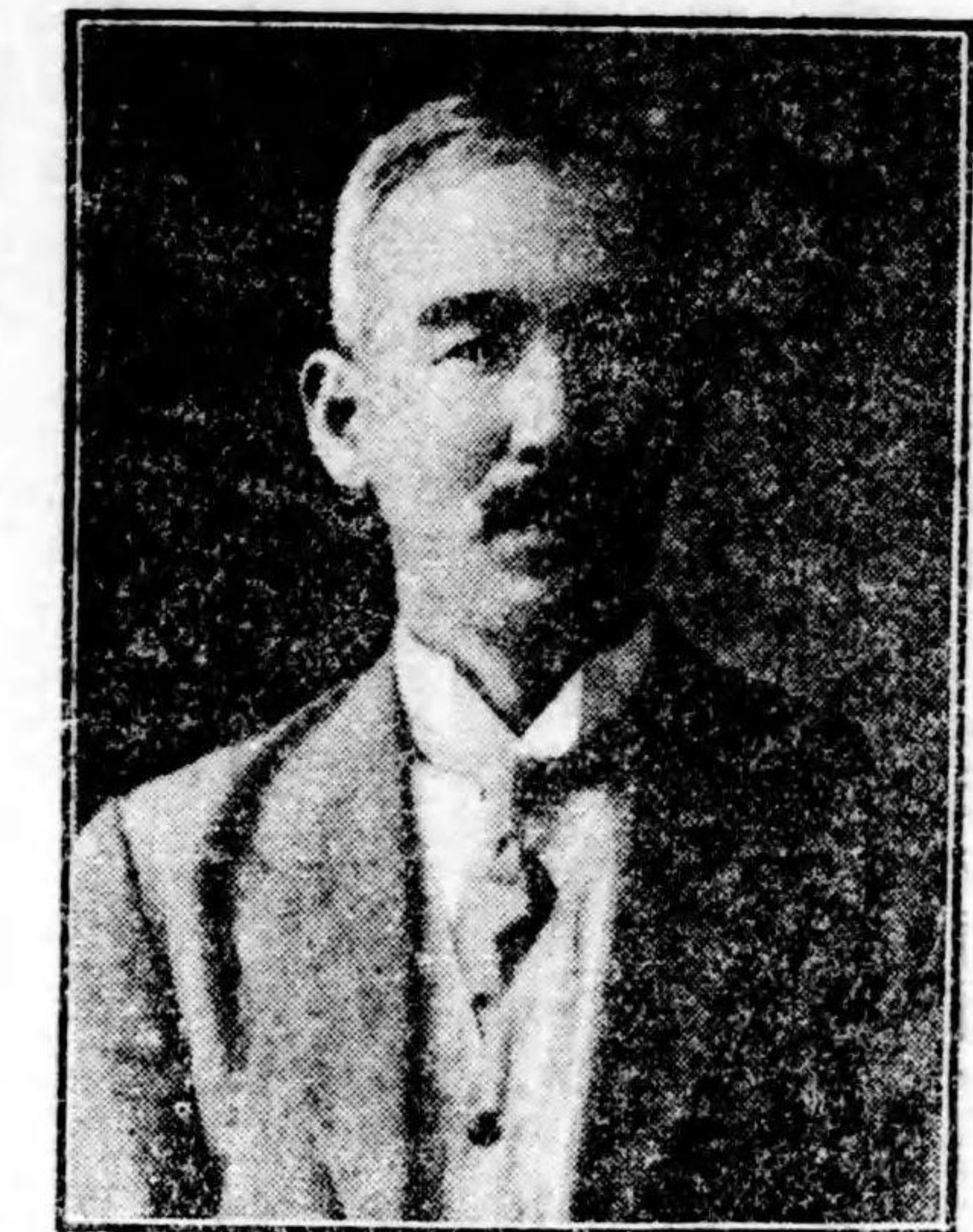
某人の言適中せりや余の言適中せるやは解らないが聞けば副議長を辭職したと云ふから某人の言然らんも余は否々と叫び、而して附言して置きたい福島は商工業化しつつあるは既に世人之を認めてる然る時福島商業銀行が福島市に如何に重要され居るかは既に市民の知る處である、此の重要され居る銀行に頭取たる氏は市民に敬意を表され居る事又然り氏は大正二年六月市會議員に最高點を以て當選し今日に至る、而して福島商業會議所が設置されて議員選舉に入るや又當選せり、かく公職を有すと雖も彼は政治に關し重視せざる所彼何かの腹案あらん、余は彼が福島縣の政界に出でるより彼が福島縣の實業界に入り、彼れの頭腦を用ゐる方彼の勿論幸ならんも又風雲に乗じて縣政界並に中央政界に出でるの方も又彼の幸なりと考ふるものである、彼を視るの人は八方美人主義なりと云ふも其は餘りに彼の前面をのみ視たるの人にして彼の側面を見れば意志強固其の取る手段又男子的なるを知らん然らば彼は女性的にあらずして男性的消極的にあらずして積極的の人物であるのだ、福島市は近く彼の舞臺となり彼の思ふまゝに通る又近きにあると言はねばなるまい、余は其の時機の速かならん事を希望す、且つ市財界の第一人者たるを望みつつある、従つて彼に對しては敬意を表してゐるのである、終りに氏に對して

其の論じて氏の人格を傷けし點あらば余の不徳に依るもの切に御許しを乞ふ。

六〇

佐藤 澤氏

醫者として評論しては趣味がない、政治家として月旦して見たい、佐藤氏と大原氏位



仲の悪い友人はあるまい、佐藤に大原を聞
けば偉い人物と云ふし、大原に佐藤の事を
聞けば之も偉いと云ふ、だから此の二人は
門外の人物に聞く方が比較的正鵠を得る世
人或は佐藤を努力奮闘進む一方の人物と思
ふだろうがこれは大間違の甚しいと云はね
ばならぬ、何故なら彼は努力奮闘的人物な

れど彼をそう見るより尙一層深く彼を知るの人は彼を感情の人と見てゐる、大原は奮闘家、
佐藤は感情の人物、こう區別すれば適中するものならん、然らば大原を積極的人物とし

れば佐藤は保守主義の人物、大原を問道主義の人物とすれば佐藤は正々堂々と遠くとも
公道を歩み目的地に進む人物だ、故に兩者の一致は到底能はざる所に於て獨逸と英國の
如き立場にあると言はねばなるまい、大原は政友、佐藤は憲政共に彼等は反對の立場に
あるのだ、余は佐藤澤を批評するの甚だ失禮なるを知ると共に其の月旦を中止したいが
なんだか心にすまない、故に彼を遠慮なく詳論して見たい、彼は大膽にあらずして小心
翼々の人物である、故に彼の前で憲政會の悪口を言ふものなら彼はその時は黙々として
るが後で不快に感ずる一人であつて彼は黨に對しては忠であるが決して政治的人物でな
い、只、最も正直な人物と見るのが適當であるまいかと思ふのである。

橋本万右工門氏

郡山町は市區改正成るは時間の問題であつて既に市の實質を備いて居る、而して橋本
万右衛門氏は福島市に對する大島の如き、郡山町の大勢力家である、根本祐太郎氏を小
心翼翼の人物とせば橋本氏は大膽な人物で小事に關せず大事に力を入れる、彼れはこの

六一

性質の爲め今日の人格を造りゐたのであるまいか、公共事業に熱心な彼は郡山町を改善せんとせば、安積郡長の遠藤辰雄氏の如き頭腦ある手腕ある人物を將來の市長候補者となし遠藤氏に力を用ゐれば如何、彼れたるものこゝ迄考ひ居るや否や、故に余は彼を評論する迄彼に對して調査せざるを恨むのである。

横内直温氏

石城の政友はいつも全盛ではない、たしかに憲政會や國民黨の爲めに其の勢力を減ずられる事は明かである、然れども横内直温氏が政界に出てゐる以上は衰亡する筈はあるまい、磐城、平の二銀行は石城政友の柱石である、白井關せずとなし山崎政界を去らば残るは横内一人でないか、高岡唯一郎は左程問題になつてない、佐藤庄太郎や新田目某はまだ／＼問題にさるゝものでない、この點に於て横内の進退は石城郡の盛衰を語るものであるのだ彼れの頭腦の明晰は石城郡に其比を見ずと言はれてゐる論者は彼れに敬意を表するこの一事である。

齋藤善三郎氏

次の縣會に伊達郡から出馬するのが齋藤善三郎氏である、又伊達郡はどうしても彼れを出さなくてはならぬ、彼れは伊達郡の功勞者で又鬼の如き雄者である、鐵橋問題に遺憾なく其氣骨を表したのである、郡會議長として一市三郡議員として余はとかく論ずるものでなく、白根村長としてでもない、彼を一齋藤善三郎として批評しても彼れは當面の意氣ある人物である、彼は石城の横内と共に一方は財界並に政界に一方は進路を世界に取つてゐる彼たるもの今正に時機來りつゝある論者は彼れの壯健を祈るものである。

高久忠氏

刀圭界中の模範人物を此の欄で紹介して終りたい、福島縣醫師中の温和にして君子的人物は平の高久忠氏を措いて他に一寸見當が附かぬ、勿論福島市にも温厚篤實な人士があるに相違ないが僕はよく各醫師の月旦をする丈け性質を知らないからであるこゝに於

て余は高久忠氏を第一人となしたのである、彼は眞の醫者として吾人の理想の醫師として立派な資格ある事をこゝに明言して置く。

照内淳良氏

我輩は當面の人物として重に政界の人物を記したに過ぎなかつたが、茲に刀圭界中温良の模範紳士照内淳良氏を批評する事を光榮となすものである、平町の高久氏は理想的刀圭家とせば照内氏は模範的刀圭家である、福島には醫學士も居るし得業士も居るが醫者として理想な人物は遺憾ながら見當らぬ、醫者にして我利／＼主義自己本位の人物が多いようだ、醫は仁術なりとかなんとか言ふ人は只だ口先きばかりである、而して十呂盤にのみ力を入れてる金すらあればどうでもよいと思つてる醫者は現在の福島に多い、この點で余は照内淳良氏の精神の立派なのに一驚するものである、彼は金を離れ名譽を得んとせず、社會公共の爲めに正々と努力して居る彼は信用も實にこゝにあると言はねばなるまい、一体醫者は利を離れて社會の爲めに務めるものであつて金を得んが爲めの

職業ではない、而るに福島 of 醫者は金を貯へて政界に出るとか又は名譽を得んが爲め士族とかなんとかと族稱すら門にはりつけてる、實にあきれて物も言はれないのである、かゝる時照内氏の如き模範的人物を福島にあるを論者は歡喜するものである。

福島縣著名人物

大島要三氏

東北實業界の霸王 大臣を以て囑望さる慶應大學出身にして現を以て目さる埼玉縣の人、各會社銀行の社 同大學教授にして時事新報記者なり、信長又は取締役にして大會社の設立等は一に 夫郡飯坂の人。

西谷小兵衛氏

氏の力に依る、努力奮闘の人物にして福島

明治十一年福

縣の代表人物にして立志傳中第一の人なり

島市に生る、三十七年二十五歳にして福島

堀切善兵衛氏

本縣選出の代 町會議員に當選、四十年市制實施と共に市議士にして政友會の少壯議員にして未來の 會議員とる、又市會副議長に選舉され、大

正二年市會議員、市參事會員に互選さる。福島銀行、福島信託の取締役、岩代銀行取締役支配人を兼ね、福島實業界振興に盡力し今實に市の中心人物として草野半、金澤忠右衛門、齋藤利助氏等と共に仰がる學識あり温良の人物なり。

一層近き將來に於て表るべし、郡山の人物にして福島縣工業界の第一人者なり。

草野半氏

福島市の中心人物にして現に市會副議長並に商業會議所議員なり

藤山平重郎氏

郡山電氣株式會社支配人として聲望あり、早稻田實業學校及專修大學經濟科卒業の人物にして工業ことに電氣事業を最も深く研究なしつゝあり、性温良にして部下を愛し信用最も厚し

郡山の發展は一に電氣事業の積極消極に依るべき事言を俟たず、必ずや氏の手腕の尙れず。

堀江九郎氏

明治三年二本松町

に生る、福島商業銀行支配人たりし事多年目下鈴木實業銀行支配人として信望あり。性温良にして奮闘家なり。

なり

二宮哲藏氏

福島市長を勤績する事拾有餘年、福島市に市長の適任者が見當らない内は氏の力に俟たねばならぬ、憲政會からも政友會からも好評がある快活なる人物にして令名噴々たるは實に氏の博學高識の其の主義男性的に依る陸軍歩兵大尉にして正七位勳五等功四級なり、氏は福島市民の趨く所を洞察し市民の福利増進に奮闘しつゝあり、實に本縣の大人物として吾人は尊敬し夫人又温順にして貞操の賢夫人

遠藤辰雄氏

安積郡長として郡山町に住す聲望あり、本縣郡長の元老にして奮闘家なり、郡山町の積極的發展に多大の研究し苦慮なしつゝあり、近き將來郡山町の市制實施と同時に第一に市長に選舉さるゝ大人物なり。

朝倉卯八氏

養父鐵造氏は元代議士なり、伊達郡立子山の人、氏は福島縣實業界の雄にして、奮闘努力の人物にして温良徳實なり、目下福相銀行頭取として縣實業界に重きをなしつゝあり。

實業界に重きをなしつゝあり。

近藤節太郎氏

福島市立商業

學校長として聲望あり勤績多年精勵一日の如し曾て福市助役の候補者に擧げられし事ありしが固辭して受けず模範教育家なり。

安藤義文氏

福島縣安積郡高等

女學校長にして大正元年より引續き勤務し生徒の信望厚く性温良にして篤實なり

横内直温氏

文久元年平町に生

る、平町會議員、郡會議員たる事十數回目下石城郡會議長なり、石城政友の雄將にして磐城銀行支配人なり、性温良にして堅忍不拔の精神に富みたる紳士にして令息は醫學專門學校醫學士にして平町に開業なし好

評あり

谷口仁太郎氏

平町の人、明

治八年三月生る、水戸中學を卒業す後實業界に入る平町に料理店を經營し東北一の料理店と云ふも過言にあらず、現に町會議員なり、名聲嘖々として町内に信望あり、又三業組合長として其任にあたり、資性英氣快活にして人と交るに城壁を設けず實に氏に一たび面會せば舊知の感あらしむ、然も公共事業に熱心にして暇なし夫人又質實にして能く子女の教育に意を用る賢夫人の名あり。

石部豊氏

現信夫郡長として才腕

の聞高し、會津の人身を官界に投じ河沼郡

長より相馬郡長に榮轉する事數回、頭腦明

晰にして言論正確眞に郡民の指導者として適當なる人物なり。

齋藤吉兵衛氏

現縣會議員に

して政友會に屬す、信夫郡渡利村に住す性温良にして雄辯家なり目下無盡殖産株式會社の支配人なり

橋本萬右工門氏

福島縣一

流の人物なり、郡山電氣會社々長にして眞に郡山町の恩人なり。

根本祐太郎氏

現縣會議員に

して郡山町長なり、性温良の紳士にして福

島縣實業界の雄なり。

河野廣中氏

田村郡の人、前農

商務大臣にして現に憲政會顧問なり、代議士として通常議會第一回より勤績し福島縣の爲め東北の爲めに氣を吐けり日本の大人物なり。

吉野周太郎氏

福島銀行頭取

なり、福島縣實業界の雄、温良篤實にして眞に紳士として福島縣を代表すべき人物也

内池三十郎氏

東北實業界の

雄として福島縣民の信望を一身に集め第百七銀行頭取なり性温和篤實の士なり。

山田一氏

實業界の雄なり、二本

松の人、嚴父脩氏は生絲の改良を斷行し斯界の先覺者を以て目さる、氏は長男にして慶應大學を卒業し以來地方開發の指導者となり明治四十三年歐米視察をなし、資性温良篤實にして學才廣汎常に公共慈善事業に奔走せし事あり、本縣の偉才にして實業界の雄なり、目下双松館主なり特に斯界の爲め奮勵を祈る。

渡邊正助氏

福島の人なり、商業銀行に勤績八年信望を厚せり福島株式合資會社を起し、株の賣買を目的となしつゝ、あり、福島株式界の雄なり。

加藤寛六郎氏

若松の人、學

徳深く温良なる紳士なり、現に福島縣農工銀行頭取にして又商業會議所會頭なり。

飯塚榮一郎氏

明治四年三月

石城縣小名濱町に生る、萬國巴里大博覽會事務局書記を勤務す、英語を研究し和佛法律學校を卒業し勤績四年歸郷後實業に志し町會議員學務委員に擧げらる事數度、目下石城郡參事會員して名聲噴々たり、政黨は政友會にして濱海道一方の雄將なり。

伊藤喜代重氏

明治十一年福

島師範を卒業し附屬小學校訓導、八島田尋常高等小學校長たりし事あり目下福島倉庫會社の支配人にして注意周到思慮綿密の士

なり、今や福島實業界の雄にして性温良の人物なり。

池上文麿氏

明治十年九月長野

商業學校を卒業し、二十九年コロンビヤ大學に入り、政治、法律經濟、殖民等の各科を

縣上伊那縣朝日村に生る、三十年長野師範を経て三十七年東京高等師範を卒業し、長野中學教諭に任せらる、三十八年五月福島師範の教諭に榮轉勤績十何年、銳意奮勵生徒の教養に意を用ゐ、更に磐城高等女學校長に榮轉し、目下平町にあり性温良にして夫人トリ子女史は福島師範教諭たりし事數年女史は東京女子高等師範出身にして學徳兼備貞操と廉潔とを以て令名あり。

星一氏

前代議士石城郡の人、東京

卒業してマスターオブアーツの學位を受く後紐育市に於てジャパン、エンド、アメリカン雜誌を發行し、我が經濟事情を紹介し且つ邦文日米週報をも發行して大いに日米親善の爲め貢献せり、後星製藥株式會社を起し全國に其の名噴々たり前々議會に本縣選出代議士として政界に身を投じ、名聲を走す別に目下新報知を發行し同社長なり。

幡英二氏

醫學士明治病院長、明

治十四年信夫郡松川に生る、明治三十九年東京帝國大學を卒業、直に同大學助手とし

て同四十二年迄で産科婦人科に勤務、二等軍醫にして従六位なり、性温良の紳士にし開業醫中最も信用あり。

に合格伊藤敬三氏の跡を受けて現在に至る夫人は伊藤氏の長女、福島高等女學校出身保坂氏は現に福島縣齒科醫師會の理事なり

西川平一氏

福島市置賜町に開業し居る齒科醫、明治十五年十二月安積郡小野井村に生る、大正三年齒科醫術の試験に合格し後平町遠藤齒科醫院飯坂町渡邊齒科醫院に勤務好評ありき、大正五年福島市に開業一流の信望を博しつゝあり、性實直温和の人物なり。

大原一氏

石城郡上遠野村に生れ

第二高等學校醫學部を卒業し上京して内外科を研究すること數年、二十九年現住所福島市に開業、現に市會議員の公職を有す養嗣子八郎氏は醫學士にして外科に於て好評なり。

丹野爲作氏

明治二十八年醫術試験に及第、翌廿九年桐生町に開業後静岡縣下に居ること六年、卅七年陸軍衛生部に應召され凱旋後現住所飯坂町に開業、内外

保坂直氏

福島市大町伊藤齒科醫院長なり、山梨縣北巨摩郡の人、明治十九年八月同地に生る、上京し齒科醫術開業試験

眼科を設置しトラホームは特に好評あり、なり。

正八位勳六等にして飯坂軍人分會副會長町醫なり。

福島憲一氏

明治二十四年福島市に生る日本齒科醫學專門學校の醫學士にして上町に開業隆盛なり。

角田一二氏

明治十四年岩瀬郡須賀川町に生る、現在平岡醫院々長なり、平岡醫院は開業十年にして平岡誠一氏經營せしむ平岡氏の死去後、角田氏引繼ぎ院長として現在に至る、玉糸會社囑托醫にして内科小兒科に最も好評あり、氏は温良にして慈善心に富み、患者に親切なる點他に其の比を見ず同醫院の開業院中隆盛を極むるもの一に同氏の力に依る菊惠夫人は米澤木場中町醫師羽生田氏の女にして柔和の女史

佐藤齒科院

伊達郡桑折町佐藤未亡人の經營せる醫院にして院長久保氏信用厚く好評なり。

長谷川一郎氏

福島地方裁判所書記にして漢學漢詩に於て雄たり、黃山とは氏の雅號なり、其の著作物又多し。

吉田久治氏

石城郡大浦村長として勤績十餘年地方の信望一に氏に集る性温良にして奮闘家なり、大浦村を模範村た

脳病眼病に著しき効ある

ぬる湯温泉

は

福島市より三里、奥羽線庭坂驛より

二里にて達す

福島市上町

内外科 佐藤病院

小兒科 院長佐藤 澤

眼科 眼科部長 土屋好文

耳鼻咽喉科 耳鼻咽喉科 大内長次郎

らしめつゝあるは氏力なり。

渡邊文吾氏

長なり。

飯坂町渡邊齒科院

神岡好次郎氏

福島市眼科院

中の第一流たるもの明治三年信濃國追分驛に生まる、二十歳にして醫師の登録を得二十六年東京帝國大學選科に入り日清日露に軍醫として出征し、掛田町より福島市に轉じ開業せり。明治四十二年獨逸に遊學し研究する事二年現在は第一流の信用を得居る眼科院なり性快活にして實直の好人物なり

菅野健次郎氏

伊達郡堰本村

に生れ大正三年開業試験に及第、千葉醫專

に實地研究し、大正四年福島三郡病院に勤務、五年早稲町に開業し内科婦人科の外、皮梅科に於て獨特の手腕を有す今組製糸醫なり。

高久忠氏

醫學士にして平町に開業し、

明治四十二年大學卒業後四十五年五月迄三郡共立福島病院長として内科、婦人科擔任せり、同六月平町に開業し内科、小兒科婦人科を主となし、野口東大醫學士を副院長とし耳鼻咽喉科一般も新設す、鐵道醫にして石城産婆看護婦學校講師たり、明治十四年生れ、性温良の君子人にして夫人は前檢事正高木盛之輔氏の第三女にして一男

一女あり趣味は文藝なり。

荒川脩氏

福島縣齒科醫師會々長の

にして上町に開業し、伊達郡川俣の人、齒科醫術開業試験に合格して郡山に開業せしが明治二十年現住所に轉住し、縣下齒科醫師中最も信望あり性温良實直の紳士にして公職を帶ぶ事數回、市會議員たる事もあり趣味は讀書、圍碁、夫人梅子女史は愛國婦人會福島支部評議員にして琴曲の名手として聞ゆ、共に慈善心に富む。

餘目村の人、温和の士にして川俣町只た一の齒科院にして好評なり。

荒川榮五郎氏

大阪醫科大學

醫學士なり、大正二年中村に開業、内外一般の診療に従事し、文藝に興味あり中村町一流の醫院なり。

佐藤澤氏

宮城縣亘理町の人、明

治元年十二月を以て生る、十七年宮城中學に入り同醫學校に轉じ、更に第二高等學校醫學部に學び卒業して直に宮城病院内科部に勤務後職を辭して東都に遊び小兒科内科を研究、二十九年歸りて福島市上町に開業し大正元年完全なる病院となり佐藤病院と

相原酉元氏

齒科醫師にして現

に伊達郡川俣町に開業しあり、大正二年東京醫學校を卒業後開業試験に合格、信夫郡

に勤務後職を辭して東都に遊び小兒科内科を研究、二十九年歸りて福島市上町に開業し大正元年完全なる病院となり佐藤病院と

改稱せり、内科の外眼科は土屋好文氏、外科耳鼻咽喉は大内醫學士なり、趣味は讀書にして美術演藝に通せり現に市會議員なり

井上國太郎氏

やまと新聞福島支局長なり、會津の人文筆に長ず經濟記事は氏の獨特なり。

八田宗吉氏

現代議士にして政友會の雄將たり、會津五郡に德望あり、陸軍々人にして従六位勳五等なり。

馬場文雄氏

明治三年滋賀縣大津市に生る、滋賀縣收稅屬より赤十字滋賀支部委員となり日清の際、赤十字の爲め活動し爲めに十ヶ月にて一萬人の社員を増殖し、實に滋賀支部の今日ある氏の力に依る

杉本ノリ子女史

明治三十三年四月縣立仙臺高等女學校を出て後東京醫學學校に學び、同三十五年五月卒業せり、四十年六月、福島市大町に開業、杉本齒科院と稱し一流の齒科院にして完全なり

奈良、青森を経て福島支部主事となり多年勤績今日に至る性温良にして常に言質を重

鈴木壽一氏

平町南町に廣大なる病院あり、院長を鈴木壽一氏と呼ぶ、明治三十七年十一月現住所平町に開業、明治

三十六年三月濟生學舎卒業、明治十四年四月生る、川柳に興味を有す石城郡醫師會幹事にして飯野小學校醫、好間小學校醫及消防醫なり、平産婆看護婦會設立者の一人にて同講習所講師なり、一男一女あり、長男虎

瀨上町に開業、現に瀨上小學校醫餘目小學校醫なり、令息は目下第二高等學校在學中夫人又柔和の女史なり

幾世橋經房氏

明治四十四年

雄氏は磐城中學在學中にして長女は磐城高等女學校に在學、令兄は好間村會議員にして曾て助役なしたる事あり、鈴木壽一氏は性温良の紳士にして平刀圭界中の雄にして高久忠氏と共に其の醫院の隆盛旭日昇天の勢なり。

一月現住所中村町に開業し、現に中村消防醫明治二十年二月十二日生れ、趣味は碁、乘馬なり、夫人シン子女史は鹿部村伊藤源吉氏の長女にして一女あり幾世橋醫院は中村町一流の信用ある醫院にして性温和にして快活の士、但し政友會は大嫌いとの事政治上に於て編者と絶体に反對なり。

鈴木一衛氏

明治十年十二月生れにして濟生會出身なり、三十七年信夫郡

福田常次郎氏

明治五年一月

二十二日栃木縣に生る、刻苦勉勵目的を達し、東京及三郡病院柴橋醫院に勤務、大正七年市内萬世町に開業、外科特に皮梅科に好評なり。

横内直杉氏

石城政界の雄將横

内直温氏の長男にして平町二丁目耳鼻咽喉専門醫院を開業好評なり。

高橋覺三氏

相馬郡中村町の人

小高町醫師高橋脩齋氏の養子となる、二十二年高等中學醫學部を卒業し、三十年八月現住所に開業、現に小高町醫なり曾て市會議員前小高銀行重役なりき、庭園に深き趣味を有す。

安齋政徳氏

福島市早稻町に安

齋齒科醫院を開業經營なり、齒科醫二名を有し好評にして縣下著名の齒科院なり。

遠藤爲吉氏

平町五丁目あり

縣下一流の齒科院にして平町には品性下劣なる同業者あるに氏の如き高尚なる人格を有する齒科醫は珍らし、院長遠藤氏は縣齒科醫師會評議員にして性温良而して其の院は患者に親切完全にして縣下に最たる醫院なり。

澁佐壽郎氏

相馬縣原の町の舊

家にして幼に父を失ひ、淑徳賢婦の譽れ高き母堂ユウ子女史の傳育を受け青年時代し

きりに精神的方面の智識を求め其長するや他に先じて原町に機業を起し以て二十有餘年後の今日に至る迄幾多の苦痛と不振とに闘ひ遂ひに原町機業界今日の隆盛を招致せるのみならず、氏か經營の澁佐機業場は力織機百五十餘臺を据ひ、縣下有數の大工場となり、氏は本縣機業界に於ける岡野足吉

照内淳良氏

福島市の人、北町

山田六郎、半谷一意、大内彌惣兵衛氏等と共に其五人男を以て目され福島縣輸出織物同業組合代議員、原町機業同業會長たる外政治的方面にも衆望を擔ふて町會議員、縣會議員等に選出され、數多の會社重役として

の出入頗る多し、市内婦人科に於て第一位なり性温良にして實直、患者に親切なり、切に斯界の爲め同氏の壯健と同院の隆盛を望む。

丹吳良吉氏

新潟縣の人、文久

實業界に其快手腕を振ひ、原町今日の發展

三年に生る、天資温厚目下帝國公債信託株式會社磐城出張所長に擧げらる、縦横の才

高湯温泉

玉子湯旅館

後藤寅治

耶麻郡吾妻村

横向温泉
下の湯 阿部庄八

女血の道、子宮病、一切の婦人病ニ特効
胃腸 其他

大原驛より一里十町

腕を揮ひて海岸通の覇者と仰がる慈善心に富み、從來公共事業に其財を費したるもの多し。

福島新聞主筆なり。

金澤忠右工門氏

福島市會議員にして實業界の雄なり努力奮闘の人物

高橋勝介氏

福島民報主筆にして聲望あり。

桑原虎三郎氏

日本硫黄會社

高岡唯一郎氏

現に代議士にして石城政友の雄たり石城郡草野村の人。

耶麻軌道部長にして温良實直よく部下を愛し信用あり、會計主任松本氏又信望あり。

立花龜太郎氏

福島市中町立花時計店主にして奮勵努力家なり市内時計店の一流にして信望あり

本田新三郎氏

前福島日々新聞及民報記者として聲望ありき目下富國館の事務主任として實業界に身を投ず、信望あり。

中野浩忠氏

政友會の雄にして石城郡の人前縣參事會員なり。

石井豐太郎氏

名裁判官として令名あり、福島地方裁判所長にして温良の人物なり。

釘本衛雄氏

現縣會議員にして

中島九八郎氏

地方裁判所上級檢事、奮闘家にして事務に熱心なること世人の知る處部下を愛し信望高く、名檢事の名あり。

柳沼保藏氏

福島市宮町に住す辯護士法學士にして信望厚く好評にして快活の紳士なり。

伏見勇七氏

相馬郡原ノ町の人町長代理として聲望あり。

小林富吉氏

第一百七銀行の支配人として聲望あり、岩瀬郡の人、明治元年を以て生る、農工銀行創立の際に盡力し三十二年同銀行の支配人たりしが三十七年百七に轉じ支配人に擧げらる、性温良の紳士なり。

田中得太郎氏

福島警察署長にして奮勵努力の人物、温良にして部下を愛し好評なり。

平島松尾氏

現に代議士にして本縣政治家の元老なり、主義に依り主義に奮闘する士なり、人格高く眞に模範政治家なり。

紺野金治郎氏

藤田信託株式會社の取締役支配人にして手腕家なり、温良の紳士にして目下町會議員、一市三郡病院議員の公職を有す。

北條安吉氏 大正館主にして福島市に於てならぬ人なり、努力奮闘の人なり。

大澤龜太郎氏 慶應三年群馬縣に生る、實業界に於て一方の雄たりし事

二三年前なりき、市會議員たりし事もありき、目下藝妓會社福華の支配人なれど近き將來に必ず表面に立ち人物なり。

大竹宗兵衛氏 伊達郡梁川町の有力家にして第一百銀行頭取なり伊達實業界の重鎮なり。

大内一郎氏 福島新聞の政治記者として聲望あり、頭腦明晰言論は男子的

なり一市三郡病院議員なり。

菊地不非氏 郡山新聞記者にして目下郡山に世を避け居れど、福島縣一流の新聞記者にして名文は氏の外に見るを得ず。

渡邊新氏 南會津の人、現縣會議員にして立憲政會の雄將なり、現に福島

市助役として信望あり、曾て福島操觚界に筆を取り轉じて二六新報記者となり侃々の論を以て民心を鼓舞し、中央文壇に重きをなせり、今後の福島、氏の活動に待つべきものあらん。

渡邊松太郎氏 安政三年大森

村に生る、夙に實業界に身を投ず、目下福島縣農工銀行の支配人として好評なり、名望地方一流なり。

齋藤利助氏 福島實業界の重鎮

として知らる市會議員たる事數回、温和實直にして努力奮闘の人なり、商業會議所議員なり。

齋藤宇三郎氏 伊達郡梁川町

の人、曾て福島商業銀行に營業部長たりき勤續十五年大正二年第一百銀行支配人に擧げられて今日に至る財界少壯敏腕家にして聲望あり。

湯川廣氏 明治八年石城郡に生る

公共慈善に力を致し名望頗る隆々たりき、

後福島銀行に支配人として今日に至る性温良にして福島實業界の敏腕家なり

桐谷文平氏 目下磐城中學校長

なり、實に福島縣教育界の柱石なり、性温良、生徒の信望厚く、夫人は東京府立第一高等女學校卒業後女子大學を卒業し、温和質朴且つ慈善心に富み淑徳の譽高し。

木村清治氏 前縣會議員にして

名聲高し石城郡大浦村の人、地方の信望隆々たり、地方自治の發展に意を用ゐ且つ石城郡刀圭界の牛耳を執り一舉一動斯界を左右するに至る政友會の雄將なり。

齋藤龜三郎氏

國民新聞支

局長にして聲望あり温良の人物なり。

陽田永治氏

伊達郡會議員にし

て湯の村に住す、性温良實直地方一流の資産家なり。

佐久間澤次郎氏

信夫郡土

湯の有力家にして土木請負業者なり快活なる人物なり。

二階堂伊藏氏

信夫郡水保村

の人、信夫郡會議員にして聲望あり、性温和實直の紳士にして人と交るに城壁を設けず實に氏と一たび面會其の談を聞かば舊知の感ありぬる湯温泉主にして夏日吾妻山に

登山をなし温泉に同氏を訪問するを目的となし登山する有力家多し。

佐藤庄太郎氏

縣會議員にし

て石城政友の雄將なり、平信託の支配人にして平町政界の花形なり。

大内鐵藏氏

平町に住す、夏井

川水電の支配人なり、手腕家なり、性温良實直の人物なり。

齋藤善三郎氏

伊達郡白根村

に住し、同村長を勤続する事十數年、目下伊達郡會議長にして一市三郡共立病院議員なり、其の言論は正々堂々其の言ふ所は公平、是を是、非を非一に政界の雄のみなら

ず、地方自治の指導開發者なり、性温和實直の人物なり。

遠藤榮三郎氏

信夫郡大森村

の人、四五年前公職にありしが目下風月を樂しみ友となしつゝあり、福島市の銀行會社の重役となりつゝあり、性温和の人物にして曾て郡參事員たる事あり。

渡會孝太郎氏

中央新聞支局

主任にして東北評論社長なり、縣治の刷新産業の發達は實に氏の主張なり、縣民を指導して奮勵努力せし人なり、近頃石城之研究を刊行し石城郡民の爲めに氣を吐けり。

鐸木三郎兵衛氏

日々新聞

社長、市會議員なり、福島縣政界の元老にして福島市の元勳なり、資性温良なる紳士にして本縣政友會の重鎮なり。

三田白夜氏

前福島日々新聞主

筆にして現に福島新聞編輯長なり、社會部記者として一流なり。

柳澤天骨氏

前福島民報政治記

者たりしが目下福島日々新聞の主筆なり。

寺澤元良氏

福島民友新聞理事

にして市會議員なり、大島氏の左腕となり奮勵努力なしつゝあり株式會社福華の取締役なる事は知らざる人多し。

庄司市郎氏

市會議員にして藝

平藝妓家組合

平町停車場前

高久醫院

小兒外科
鈴木醫院

平町南町

磐城銀行

平町

福島市太田町

今組福島製絲所

電話二一〇番

者會社福華の社長なり仙臺の人なり。

大島善五郎氏

一市三郡共立

病院の事務長として多年勤績し今日に至る
温良にして手腕あり。

家なり、縣會議員として地方殖産の爲めに

氣を吐き性温良實直の良紳士なり。

田原口三男氏

相馬郡原の町

渡邊龜太郎氏 一市三郡共立
病院の藥局長にして少壯辯論家なり氣骨あり奮闘努力の人なり。

相馬電氣株式會社は氏の手腕に依つて成績をあげつゝあり、少壯實業家にして温良の紳士なり。

紺野連氏

相馬郡原ノ町に住す、

福相銀行原町支店長にして努力奮闘の人なり、相馬實業界の少壯たる人士なり。

島貫平助氏

前信夫郡瀬上町長

にして信夫郡の有力家なり慈善心に富み公共事業に力を致せし事何十回、日本赤十字社有功特別社員なり。

林庄太郎氏

現縣參事會員にして

相馬郡石上村に住す、大清館蠶種製造所は實に氏の經營の館なり、縣下有名の蠶種

河西大彌氏

農商務省原蠶種製

造所長として令聲あり人と交るに城壁を設けず快々たり努力奮闘家にして曾て私費を

投じて支那に遊學し大いに蠶業状態を視察

なせし事あり、性温良快活の人士にして頭

腦明晰果決流るゝ如し。

醫、鐵道醫にして縣醫師會幹事なり、文藝

趣味あり温良の紳士なり。

佐々木八千代氏

伊達郡藤

岡野足吉氏

福島羽二重會社支

配人にして奮闘努力の人なり、福島實業界

田町の開業醫にして藤田町一流の醫院なり

石城郡に生る、明治三十七年十月仙臺醫專

の雄にして今後の福島市は氏の力に俟ち所

多し自ら市會議員たるを固辭し今漸く商業

卒業、四十一年現住所に開業今日に至る地

方民の信用厚く選出されて町會議員となり

會議所の設置あり議員選舉に擧げられて商

現に公職にあり性温和の紳士にして其の醫

業會議所議員となる、男子的氣性を有す、

院も隆盛を極む。

温良の人物なり。

桐澤長明氏

明治四年秋田市土

酒井國三郎氏

明治二十四年

四月平町南町に開業、第二高等學校醫學部
卒業也、監獄醫務所長たりし事あり中學校

手龜ノ町に生れ、十四歳にして醫學に志し
縣立秋田甲種醫學校に入學、更に第二高等
醫學部に轉じ、卒業後天野博士に就て生理

細菌學を修め、宮城病院に入り二十九年新
潟縣小千谷病院副院長となり、次で本宮病
院醫長に轉じ、福島病院に勤続十年、同四
十三年福島市中町に開業現在に至る性温良
にして讀書を好み地方の信望厚し。

讀書に興味あり温和の士なり。
齋藤義一氏 伊達郡會議員にし
て敏腕家なり、有志家として世人に知らる
茂庭の人なれど飯坂に居あり温和實直の士
なり、

南二郎氏

安達郡二本松町に生る

佐藤秀藏氏

現縣會議員にして

十六年東大卒業の醫學士なり、二十三年南
病院を設立し、現に醫師會名譽會長なり。

温和の士なり、飯坂町に住し、大會社銀行
の多くに關係なしつゝあり地方の信望一身
に集りつゝあり。

柴橋惣太郎氏

福島市萬世町

堀切文輔氏

飯坂町の有力家に

柴橋醫院長なり、明治九年六月山形縣西村
山郡に生る、三十六年仙臺醫專卒業し、直
に三郡共立福島病院に奉職し勤むる事九年
四十四年現住所に開業し、今日に至る特に

して飯坂信託の重役なり。
佐藤儀四郎氏 伊達郡長岡製
糸場長なり、性温和努力奮闘の士なり長岡

製糸も五十萬の資本となるに至るもの氏の
努力に依る。

小倉清太郎氏

郡山町の有力

田中柳太郎氏 伊達郡長岡村
の人、土木請負業にして奮闘家なり性温良
の人物なり。

家なり、性温良實直にして努力奮闘の人物
なり、夫人は産科醫にして其の經營する醫
院は隆盛を極む。

大和田豊吉氏

平町に住し、

遠藤吉兵工氏

伊達郡睦合村

獨立して假賢學舎を開校し、自ら校長とな
り、奮闘しつゝあり同學舎の生徒百人を數
ふに至れり。

助役にして勤続三十年其の功多し性温良實
直の士なり。

柴四郎氏

白井氏と争ひ一票の差

吉野勝氏

相馬郡長にして頭腦明

にて勝利を得たりやゝ其の勢力微とならん
も信望會津五郡に隆々たり前外務參政官に
して目下代議士なり。

晰郡民の信望厚し常に相馬郡の發展に意を
用ゐつゝあり、性温良の紳士にして敏腕家
なり

野崎龜喜氏

相馬銀行頭取にし

中村町有力家なり、性温良の人物にして
中村町になくてならぬ人物なり。

大谷九十九氏

相馬銀行支配

人にして敏腕家なり、人に對して好感を與
へしむ、努力奮闘家にして温良の紳士なり

後藤寅治氏

高湯温泉玉子湯旅

館主にして性温良の人物なり、曾て信夫郡
水保村に助役勤務せし事あり。

伴野祐八氏

河沼郡選出縣會議

員にして頭腦明晰地方の信望厚く目下河沼
郡堂島村長を兼ね居れり、性温和實直の紳
士なり。

菅野與右工門氏

伊達郡川

俣町の人、現伊達郡會議員の少壯人物なり
快活にして人と交るに城壁を設けず川俣地

方有數の人物にして盡力家なり。

武藤茂平氏

川俣銀行頭取にし

て川俣町一流の大資産家なり、性温和實直
の紳士なり。

五十嵐權次郎氏

福島市廣

益社主にして新東北社長なり、努力奮闘の
人物なり。

菅野善右工門氏

伊達郡福

田村の人にして伊達郡有數の人物なり、現
郡會議員にして一市三郡共立病院議員なり
齡三十有餘前途有望にして或は近く縣議に

出馬せん。

鈴木重郎治氏

現縣會議員に

して政友會の雄將なり、縣の大人物なり。

小泉音七氏

田村郡小野新町に

住す、現郡會議員にして小野新町の有力家
なり、性温和實直の紳士なり。

荒井温氏

伊達郡保原小學校長に

して縣下第一の教育家なり、頃日文部省よ
り賞されしは氏一人なり、性温和にして頭
腦明晰果決流るゝ如し

佐々木勘六氏

伊達郡保原町

の有力家なり、前保原倉庫會社の支配人な
り、性温良實直にして人と交るに城壁を設

けず信望厚く目下製糸業ををなしつゝあり

小野義右工門氏

伊達郡伏

黒村の大資産家にして保原共益の社長なり
温和の紳士なり。

光石三平氏

信夫郡飯坂町の光

石鑛業所主にして温和實直の人物なり、氏
の經營する鑛山は一日五百圓の利益ありと
云ふ。

田中柳太郎氏

伊達郡長岡村

に住す、土木請負業者中の元老にして縣内
の信望を一身に集めつゝあり、性温良の紳
士なり。

味澤今朝治氏

現今組製糸所

御料理

平町

谷口樓

電話 八番

長なり一の關より轉じ努力奮闘の人物にし 員にして一市三郡共立病院議員なり、意氣
て今の今日の隆盛は氏の努力に依るものと あり才智あり、事に當つて機敏、憲政會に
云ふべし、性温良實直中に男子的精神あり 籍を有す。

特に斯界の爲め其の奮勵を祈る。

田中得太郎氏

現福島警察署

長なり、奮闘努力の人物にして好評あり。

本田憲氏

東海信託株式會社専務

取締役にして能く東海信託の爲め努力奮闘

なしつゝあり、而して最も其の隆盛は氏の

努力に依るものと云ふべし、福島市財界の

雄にして性快活にして温和實直の紳士なり

仲間町に住す。

島長五郎氏

福島商業會議所議

田口留兵衛氏

伊達郡梁川町

長にして二十年勤績し彰表さる、性温良に

して良町長の名あり。

佐々木勘六氏

伊達郡保原町

の人製糸家にして前倉庫會社支配人なり。

合名 太宰銀行 菅野洋吉氏 會社 支配人

氏は齡未だ四十に達せず英風縱横才氣充溢太宰文藏氏の先代より事へて現代の主人を扶けて銀行業を起し信用厚く同行支配人として一切の任を帯び同行の今日あるを致し東京に太宰貯蓄銀行の株式組織を起し縣下は勿論、宮城山形縣下に業務を擴張する等氏の奮闘的努力の効は銀行の信用と太宰氏の徳望を一層大ならしむるものなり

保原製絲と佐々木氏

保原製糸所は釜二百を有し伊達有数の製糸所なるが阿部氏は前保原倉庫會社支配人佐々木勘六氏に譲り佐々木同所を經營する事となれり、佐々木氏は人も知る如く經濟界の敏腕家なれば定めし同製糸所の一革新をなしならん。

羽二重株式會社と岡野氏

福島縣羽二重株式會社は本縣唯一の機業會社として縣民に知られ其の生産額は實に百萬圓なり、而して同社長は福島縣財界の雄たる吉野周太郎氏にして前貴族院議員として現福島銀行頭取として知られし人物なり支配人岡野足吉氏は創立以來の功勞者にし

て本縣羽二重業の元祖とも稱せらる、同會社の盛衰一に氏の一舉手一投足に係るものなり、福島商業會議所議員にして福島市會議員なり、商業會議所議員に氏の當選せしは最も喜ぶべき事にして機業の改良其他今後の市商工界の改良視るべきものあらん、性温品にして快活人と交るに城壁を設けずこれ氏の生命にして信望厚く會社の隆盛旭日昇天の如し。

梅毒科専門の

菅野醫院と院長

福島市早稲町の菅野醫院は外科梅毒科に於

ては市内一流の名あり、其の六百六號注射に於ては他に其の比を見ず、開業以來二年其の六百六號注射數三百を數ふ而して其の効ある事は既に患者全部の全快に依り證明さるべし、かくの如く其の効あれば患者門前市をなすが如し同院長菅野健次郎氏は梅毒科専門として三郡病院に勤務中好評ありし人物にして温和實直の紳士なり貧困者には特に無料療法をなしつゝあり今組製糸の囑托醫なり。

現代の福島と名打つたとは言へ實に材料貧弱亂暴な描き方で之を公にすると云ふ事は慚愧に堪へない次第であつて、何故にこんな立派な名稱を附したかを今更ら残念に思つて居る、一体僕は學問がないのに生意氣にこんな計畫をするからである、而しこれを發行する目的は福島縣の人物紹介であるから只た本書を見て福島縣にこんな人物が居る、この人物は何地に居るか判れば編者の満足である、只た發行に就て遅延せし事は何とも申譯がない、この本を多數の人々に配布せんとして頁數を減じて部數を増した更に二版三版と發行の積りである、勿論頭のなつてない僕の出版したのだから見る所もなからうが、もう十年も待つてもらひたい、僕は宮城縣の生れだから假名違ひがあるかも知れん、これは僕の罪もあるが大半は土地の罪であるからこれも許してもらひたい。

發行に就て題字、祝文を賜りせる福島縣會議員鈴木重郎治氏、石城郡會議長横内直温

氏又種々御同情を得た福島商業銀行頭取草野半氏並に中央新聞の渡會支局長、大和記者、小野新町の蓬田、福新記者諸氏に感謝する次第である。

大正七年春

飯坂温泉にて

編

者

信夫郡飯坂町

内外科
トラホーム

丹野醫院

大正七年八月出版

自由評論

四六版 五十頁 定價拾錢

- ▲本縣選出代議士 ▲福相鐵道將來
- ▲財界革新 ▲縣會議員
- ▲郡市會議員 ▲政界の強者
- ▲社會の裏面 ▲紳士の横行
- ▲危險思想の人 ▲地方自治研究
- ▲夏日に於ける男女 ▲温泉の罪惡
- ▲温泉の價値 ▲不良青年
- ▲平和か戰か 其他

編者 齋北洋

安達郡二本松町

双松館製絲所

山田一

福嶋市中町

新築落成 桐澤病院

内外科 胃腸科
小兒科

福嶋羽二重株式會社

毛筆は

文榮堂に限る

福嶋市大町

相馬郡原町

松永商店

松永留之助

伊達郡川俣町

川俣製糸所

場主 安田常作



復製不許

現代の福嶋

大正七年五月二十九日印刷
大正七年五月三十一日發行

(定價金參拾錢)

著者 齋 熊 稚

福島市榮町四番地

發行人 齋 熊 稚

仙臺市片平町四十五番地

印刷所 早川活版所

終

